



# 航 跡

早稲田ヨットクラブ会報

昭和61年12月発行

発行者・事務局長 舟岡 正

編集・広報室 米田晴二

石田晋也

— 20 —

## A 級ディンギーも

三戸浜沖に //

### —早稲田ヨットマン

#### 夏の集い—

7月20日朝、三戸浜に大勢のメンバーが集まってきました。夫人連れあり、お子様連れあり、総勢60名。なかなか賑やか且つなごやかな集まりとなりました。

梅雨明けが遅れて天候が心配でしたが、薄曇りのままあの天気。風も微風から軽風ということで、久し振りにティラーやシートを握るロートルヨットマンにとっては先づはベストコンディション。そんな中で、スナイプとシーホッパーに分乗してシヨートレースをやりまし

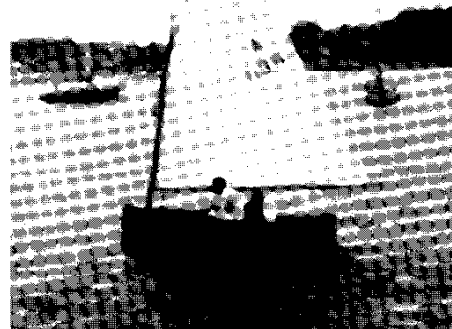


5艇のクルーザーに分乗した家族達が見守るなか、熱戦を繰り広げた筈ですが、どんな珍レースが展開されたのか、残念ながら小生は陸でバーベキューパーティの準備に忙殺されていたので、詳しいことは分かりません。

優勝はスナイプが浜田さん。シーホッパーが舟岡さん。浜田さんは今でも実業団選手権でシーホースに乗っている現役。舟岡さんも元オリンピック選手とあってみれば、先づは順当な勝利という処でしょうか。

レースを終わってよいよ表彰式とバーベキューパーティ。その晩から合宿に入る予定の現役の学生、女子マネージャー達も加わり総勢100人の大パーティとなりました。

小沢会長の挨拶のあと、名古屋から駆けつけた村瀬さ



全レース完走の石井(28)OB

ん寄贈の優勝カップが手渡され、乾杯のあとは豪快に飲み且つ食べての無礼講。

河村さんから寄贈されたサッポロビールも、舟岡さん寄贈のフランス焼酎もたちまち底をつき、学生達が何回も酒と水を買いに走った次第です。食物の方は並木さんを煩わして、食肉会社から直接スペアリブとソーセージを分けて頂きましたので量はタップリ。味の方も石井哲君が手製のタレを作り、前の晩から漬け込むという凝り様で、これ又大好評。土肥さん寄贈の特製バーベキューセットに炭火を燃し、焼きたてをふるまいましたが、皆が鱈腹食べても食べきれず、肉も野菜も残りは全部、その晩から合宿に入る学生達に寄付した次第です。

皆の善意と奉仕で盛り上ったこの夏の集い、最後に唱った『都の西北』が酔いも手伝って本当に気持ちよく夏の空に響きわたりました。

今年参加されなかった皆さん、来年の夏は是非いらして下さい。飲み物と食べ物では決して不自由はおかけしません。(木村)



## 航跡 1986 (その2)

◎全日本インカレ 総合3位 61.8.6~10(於 博多)

- 1.同志社 2.日大 3.早稲田 4.甲南  
5.九大 6.京大

(尚クラス別は 470級6位 スナイプ6位)

九州の先輩の皆様大変お世話になりました。又、沢山の先輩から奉賀帳ご寄附を賜りました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(主将 斉藤)

## ◎新上期紹介

主将・鈴木光宏(法) 副将・羽田 晃(理工)  
主務・渡辺誠二(政経) 稲竜・石井康夫(教育)  
学連・大杉高司(法)

恒例の如く 全日本インカレで前上期はその任務を終り、秋の諸行事以降上記メンバーで推進運営されている。

## 三大学対抗レース

関東学生ヨット界のリーダー的立場にある早稲田、中央、日大の三校が集って理想的なレースをやり、更にレベルを向上させようとの趣旨が三校間で合意され、10月11、12日に森戸で開催した。

大会会長矢頭先生、レース委員長杉山理事長 即ち早稲田が第一回当番校を引受けて実現させた。470、スナイプ4隻づつ、5回戦。戦績は残念乍ら3位に終わったが、意義あるレースだった。関東のレベル向上、ひいては当ヨット部のレベル維持と向上の為 存続してゆきたい。

尚レース後、3校で懇親会を開き友好を深めた。

## 四大学OB戦(第16回)

9月27日前夜祭、9月28日レース、Y15で2回戦を行った。1位 関学、2位 同志社、3位 早稲田、慶応。来年の、当番関学となる。諸兄のご参加を今からお願ひしたい。

## 関東インカレ(秋季)

61,10,18~26 森戸海岸沖

Aブロック・17校、Bブロック・15校、Cブロック・16校、合計48校の参加。早稲田はAブロック予選から決勝進出、総合4位であった。クラス別には、

470級 6位、スナイプ級 3位、総合 4位。

## 東京六大学(秋季)ヨット定期戦

61,11,1~2 早慶明法立東の六校

470級 2位 スナイプ 2位 総合 優勝

## 早慶戦(61年秋季)

470級 負 スナイプ 勝 総合 優勝

## 納会予告

61,11,29 三戸浜 小島合宿所 15.00

## 合宿日程

12月26日より62年1月1日まで合宿予定です。ご支援をお願い致します。

## 木曜日より(理事会報告)

○61,6,19 18.00 永楽倶楽部

(出席 横田、石井、安藤、米田、浜田、杉山、舟岡、加藤、並木、土肥、木村、大、石井哲)13名

全日本インカレ費用対策。会報編集方針。夏の集い'86手順協議。体育実技59年度での事故賠償保険金などの件説明。バレーボール部優勝祝の件。クラブ財政対策。など

○61,7,17 18.00 永楽倶楽部

(出席 石井、安藤、浜田、杉山、舟岡、武村、土肥、木村、大、松島、石井哲)11名

夏の集い'86準備確認。クラブ財政状況点検。西原総長招待クルージングが汎早稲田ブルーウォーター派の人々で計画あるに付き、当クラブの対策。体育実技応援計画。秋の集い'86の件。四大学OB戦日程。OB名簿配布手順。学生インカレ用奉賀帳の結末報告。

——奉賀帳ご寄附は99万5千円に達しました。

ご協力に感謝いたします。——

○61,8,21 18.00 永楽倶楽部

(出席 横田、石井、米田晴、浜田、杉山、舟岡、並木、土肥、木村、大、石井哲、大矢木)12名

全日本インカレ報告。九州OBと入江OB父君より寄附受入感謝。夏の集い'86 別報告の通り盛会にて黒字となりヨット部へ7万円寄附をした。体育実技日程と参加メンバー対策協議、特に稲龍の安全性について議論沸騰す。四大学OB戦の件。秋の集い日程。など

○61,9,18 18.00 永楽倶楽部

(出席 小沢、横田、石井、米田晴、杉山、舟岡、武村、清水、加藤、並木、土肥、木村、大、松島、頼、石井哲、杉井)17名

実技結果報告。関東ビッグ3ヨットレースを本年より開始 本年当番は早稲田。進学推薦者の件。稲龍存続の件、議論を重ね別項の如く稲龍委員会をチーム強化し具体的方針を立て推進することとした。体育実技のあり方、とり組み方 継続審議。

○61,10,16 18.00 永楽倶楽部

(出席 横田、石井、浜田、杉山、並木、加藤、木村、大、頼、杉井)10名

忘年会 61,12,4に永楽で開く。秋の集いは日程上無理なので本年中止。会報発行方針協議。稲龍修理と運営方針。

○61,11,21 18.00 永楽倶楽部

(出席 横田、安藤、浜田、杉山、武村、並木、土肥、木村、大、石川、杉井)11名

議事内容 次号

# 稲龍修理に対する方針と 今後の運営について

## 稲龍委員会

稲龍は昭和39年11月の進水以来、今年で満22年になりました。

この間日本一周始め、数々のレースにも参加したり、また廻航や体育実技の無くてはならない存在として活躍して来ました。

然し近年は、部員数の減少に伴い活躍の場は、残念ながら減少の一途を辿っています。是非ともOB諸兄姉の御協力を得て、曾ってのようにマルーンの艇体を三戸浜に、葉山に、岩井に滑らせたいものです。

一方この22年間には、エンジンの交換、大整備、マストの交換等整備を重ねて来ましたが、今年になって一部OBから稲龍の安全性についての問題提起もあり、この度岡本造船所にて診断を受けました。その結果、全体としては今後も十分に使用できる状態と判断されるものの、安全上一部修理が必要との診断になりました。修理が必要な部分及び岡本造船所のコメントは、下記の通りです。

### ○要修理箇処

1. フロアーボルト、ガセットボルト、ガンネル取付ボルト、キール及びフロアー材の固着ボルト等旧式ボルト類の交換。
2. キャビントップの屋根新替及びバウ、スターンハッチの取替。
3. ウィンチベースの取替。

### ○コメント

1. 外板は良好。デッキも周辺部で一部水漏れ有るが概ね良好。コックピットの床もしっかりしている。
2. フレームは通常の艇より数も多くしっかりしている。

3. 建設時のボルト類はドブ漬けで瘦せてしまっている故、全部交換が必要。
4. アカ漏れは木造のヨットとしては普通程度である。
5. ウィンチベース、ブームスタンド等ドブ漬けの腐食した部分は取替が必要。
6. バラスト、ラグー回りは上架後点検する。
7. 全般的には良好な状態で、ボルト類の交換、ハッチ取替をすれば、当面危険な箇処は無いだろう。

岡本造船所の見積りでは、諸経費も含めて修理が望ましい部分の費用概算は350~400万円、その内安全上是非とも修理が必要な部分は、フロアーボルトの交換等約120~130万円となっています。理事会で慎重に検討した結果、安全性と言う避けられない問題でもあり、この部分については予算の有無に拘らず早急に修理を実施することと致しました。

尚費用に就きましては、大学に急拠追加予算を申請致しましたが、既に本年度予算は決定・配分済でもあり、緊急には間に合わないことが懸念されます。また例年逆に予算の削減を言われていることから、余り大きな期待は持てないと考えられます。必要出費につきましては理事会を通じてのバックアップをお願いいたします。また乗艇の機会が減れば、メンテナンス面での問題も発生し易くなることから、今後は稲龍をどンドン動かす方針で臨むことが理事会で決定され、稲龍の運営を、杉井(委員長 48年)、酒井(53年)、柴崎(57年)のOBを中心とした新陣容で行うこととなりました。

具体的な方針はこれから決めて行くこととなりますが、基本的には、①定期的にOBが乗艇できるような催しを行う、②稲龍が参加できる(楽しめる)レースに積極的に参加する、③稲龍への学生の参加をふやして行き、将来は学生が自主運営できる場所にまで持って行く……を中心に進めることになると思います。

稲龍II世、稲龍IIIに繋げて行くためにも是非とも資金的バックアップ御協力頂くと共に、稲龍の活動に積極的に御参加頂きますようお願い致します。 以上

## NEW YORK W.Y.C.

早稲田ヨットクラブ非公認ニューヨーク支部の会員は宮田元輩、同期の小坂君(41年卒 IHI INC)後輩町田君(45年卒 MITSUI PETROCHEMICAL IND.)それに小生(41年卒 Tokyo Tomin BANK NEW YORK OFFICE)の4名。

小生は昨年7月事務所開設のため就任、偶然にも小坂君も一週間と違わず転勤の命を受け着任し、しかもビルは隣同志で腐れ縁は延々と続くことになった。就任当初は二人とも独身の仮住まい。小坂君のために用意された宿舎は質素で鳴る石川島播磨重工業(別称ケチカワジマジウロウドウ)米国法人が準備しただけあって中々のしるもの(代物)。彼はたまらず家出を決行し我宿舎にコ

ロガリ込み奇妙な合宿生活を暫く続けた。宮田先輩には色々ご迷惑をおかけしている。ご自宅にも何回か押しかけたし、マンハッタンの夜をお伴し、ブロードのホステス相手にダンスに興じたこともある。我々にとっては真に残念ながら8月には帰国されるとのこと。本社ご栄転では文句もつけづらいが別れを惜しんで送別会を催すことにした。

町田君は大変忙しい男で出張が多く未だ会う事もできない。如何なる中年男に変身したか再会が楽しみである。

9月からはニューヨーク支部も三人になってしまうが灯は消さぬ様、今後も飲み会は続けるつもりである。OB諸兄、ニューヨーク出張の際には是非お声をかけてください歓迎します。(江上 尚良)

## 12フィート・ディングーを 保存する会 告 !!

戦前から戦後へ、波乱のときを通じて、ディングーは我々のふねでありました。このふねで我々は、海を知り、ヨットを知り、友を得たのであります。その性能において、近代ヨットに劣るとしても、ディングーは永遠に我々の母なるふねであることに変わりありません。

A級12フィートディングーが絶滅することに、限らない哀感を抱くオジサン達よ、わずかに残存するディングーを保存する会に参集されよ!

早稲田大学ヨット部には2隻のディングーがあり、現在岡本造船所に持ち込んで大修理(オールチャンチャンしめなおし)を行っています。

来春には我々の手で、この2隻を帆走できる状態にして、往時を偲ぶメモリアルレースなどいたしたいと考えています。

早稲田ヨットクラブ

12フィートディングーを保存する会

会長 石井 章夫

設立委員 杉川 博保・舟岡 正・武村 洋一・加藤 文生

事務局 〒150 渋谷区恵比寿4-5-28恵比寿ガーデン

Tel.03-442-6231 共栄産業㈱ 加藤 文生

振込口座 富士銀行 新宿新都心支店 普 906243

A級ディングーを保存する会・会長石井章夫

年会費 1万円

## 忘年会の前に 会費は お忘れなく!!

私たちのクラブ活動を支えているのは、やはり健全な財政です。今年も別掲の様に沢山の会員諸氏に、会費と寄附を納入していただきました。その他にも、インカレ奉加帳ご寄附、プレハブハウス関連ご寄附、ネクタイ・帽子お買上げ、夏の集いの他、委員会でのご出費、いろいろありました。お蔭様で吾々のクラブは力強く活躍しています。年を忘れても諸先輩の力強いバックアップは忘れません。1万円の会費納入を、つい お忘れの方是非下記にお寄せ下さい。そして出来ますならば 1万円以上のご寄附も期待しています。

支出は理事会での激しい議論を経てから実行されています。今後 稲龍問題という大きな目標もあります。吾々一人一人が ガッチリとワセダ・スピリットでスクラムを組んで解決してゆきましょう。どうぞ、忘年会の前に会費だけはお忘れなく。

振込先：第一勧業銀行 日本橋支店

(普)038-1445739

早稲田ヨットクラブ 杉山博保

## 赴 報

●中塚勝三氏(S16年卒)

『吾が航跡をすすめ』と情熱を注いだ50年史を完成させた三年後の61年11月21日朝、中塚先輩は肺の病で永眠された。

同氏は始め水泳部に所属したが、中野富士見荘で同宿の田原ヨット部主将に勧められヨット部に加わり(昭29年)、数多くのレースで活躍された。代々本国立競技場内にあるスポーツ博物館の 神宮大会優勝者名を刻したボードに同氏の名は永久に残されている。(50年史58頁参照)

昭和17年、海軍予備学生として出陣、海防艦の通信長として南方水域で転戦、20年4月香港で被弾負傷の為帰還された。

戦後は商社におられたが 後に毎日放送で活躍された。西宮の海で田原・宮川氏らと海を愛し、後輩の面倒を見続けたこと衆知の通り。昼も夜もだった。

この数年は 放送評論の傍ら豊かな才能で 絵画・木彫・作陶を楽しまれた。ヨットの油絵、大小の仏像など作品多数。

戦時史を記録整理され、日本海軍の海防艦史も手掛けられ、その次に吾がヨット部史の編纂委員長を引受けられた。年史398頁以降の年表中、「世界と日本」の元本は豊富な解説付きであった。

四大学OB戦も 中塚さんの主唱に始まった。早稲田が仲々勝たないので、或る前夜祭で「明日は勝っても負けても、早稲田の優勝にせよ」と他校を悩ませたところ、翌日本当に優勝して了った。喜んだ同氏は 他のOBと共に病床の田原元主将に報告に上がったが 田原氏仲々信じなかったとか。

50年記念パーティに上京、16年主将の堀さんに逢われて喜んでおられたのが今も目に浮ぶ。

関西在住の、宮川、大神、園谷、恒川OB、山原さん大人が弔問、お送りした。全OBと共に 冥福をお祈りします。

(米田 晴二)

## 編集後記

吾がクラブの活動も 全年代の方々の盛り上がりが大きいうねりになっていることを この紙面からも感じとっていただける様に思います。運営の中心が昭和20~30年代から、30~40年代に バトンタッチされてゆくのも動きの中から感じとられて心強い限りです。早稲田運動部の中でも最も良く機能している部と自負出来るとおもいます。戦跡面、財政面 OB活動面すべてに自信をもって良いと思います、本号は、編集委員多忙にて 皆様にご心配をかけたりましたが 何とか形がついた様に思います、ご叱声を期待します。(晴)

会費納入者及びご寄附の掲載は紙面の関係上、次回の航跡にてご報告いたします。